

2014年度 後期		リフレクションペーパー					
学科名	建築・デザイン学科						
科目名	静定構造力学Ⅱ及び演習						
科目区分	専門科目	単位数	3	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/必修科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)						
担当者	津田和明・平松晃						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静定ばりと静定ラーメン構造の力学的特徴を把握し、応力図を描くことができる。(A6,B1)</li> <li>・応力度の算定方法を身に付け、組み合わせ応力の算出ができる。(A6,B1)</li> <li>・各種の断面定数のもつ意味を理解し、断面定数の計算ができる。(A6,B1)</li> </ul>						
日程と内容	9/17 導入講義 9/24 応力の意味・QM・片持梁応力図 10/1 単純梁応力図 10/8 区間ごとに求める応力 10/15 静定門形ラーメン応力図 10/22 斜材をもつ左右対称・3ヒンジラーメン応力図 10/29 臨時試験と解答解説 11/12 垂直応力度とせん断応力度 11/19 曲げ応力度算定・縁応力度 11/26 せん断応力度分布と断面形状 12/3 組み合わせ応力度と断面の核 12/10 図芯と断面一次モーメント 12/17 断面二次モーメントと平行軸の定理 12/24 断面主二次モーメントと主軸、極二次モーメント 1/14 定期試験 1/21 まとめ						
成績評価基準	定期試験	30%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	10%					
	演習	30%	計	100%			
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静定ばりと静定ラーメン構造の力学的特徴を把握し、応力図を描くことができる。(A6,B1): ほぼ達成できた。</li> <li>・応力度の算定方法を身に付け、組み合わせ応力の算出ができる。(A6,B1): ほぼ達成できた。</li> <li>・各種の断面定数のもつ意味を理解し、断面定数の計算ができる。(A6,B1): ほぼ達成できた。</li> </ul>						
反省点	数学の知識がなく、構造力学の授業についてこれない学生が増大している。試験で比較的良好な成績を取っている生徒でも、基本を理解している生徒は僅かで、大半の生徒は、解き方だけを覚えているにすぎない。生徒は、皆、良好な成績を取るためだけに勉強しているようで、そのような生徒に対する授業方法を考えていく必要がある。						
来年度の計画	数学の知識がない学生に関しては、授業の前に、その総復習をさせる必要がある。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は、7.3点であった。これは、授業資料を配布せず、ノートを取らせ、これに起因して、授業時間がオーバーすることがたびたびあったためと思われる。来年度は、授業資料を配布することとする。						
履修登録者数	95名	定期試験受験者数	84名	合格者数	77名	合格率	92%